

仙台 YMCA 山岳会

季報 やまびと

夏編

2022年5月～2022年11月



2022・7・9～10 大深沢～東の俣沢

報告一覧

① 5・2 1	丁 甌山	夏道	記 鏡
② 5・2 9	鳥海 七高山	スキー	記 大竹
③ 6・2	月山	スキー	記 牧野
④ 6・4～5	船形山	夏道	記 丸山
⑤ 6・4～5	二口エシコ沢	沢	記 坂本
⑥ 6・11～12	安達太良 石延沢(会山行)	沢	記 鈴木
⑦ 6・2 5	大行沢	沢	記 後藤
⑧ 7・3	蔵王古道	夏道	記 阿部
⑨ 6・29	川入より飯豊	夏道	記 牧野
⑩ 7・2～3	奥新川 北沢	沢	記 坂本
⑪ 7・3	百宅より鳥海	スキー	記 田中
⑫ 7・9～1 0	大深沢、～東の又沢(会山行)	沢	記 伊藤
⑬ 7・1 9～2 0	ヤオロマップ岳	夏道	記 牧野
⑭ 8・6	米子沢	沢	記 鈴木
⑮ 8・2 0～2 1	鳥原より大朝日	夏道	記 鏡
⑯ 8・22～24	奥秩父 小川山	岩	記 布施(香)
⑰ 8・17～18	南会津 大橋沢	沢	記 坂本
⑱ 9・17～1 1	鳥海 ビヤ沢	沢	記 荻野
⑲ 9・28	吾妻山	夏道	記 布施香
⑳ 9・2 6～2 7	五葉山	夏道	記 塚本
㉑ 10・3	黒伏 三十路ルート	岩	記 鈴木
㉒ 1 0・9	虎毛山	夏道	記 岡安
㉓ 10・15	雁戸山	夏道	記 鏡
㉔ 10・16	蔵王古道	夏道	記 大竹
㉕ 10・19	蔵王 三小屋巡り	夏道	記 大竹
㉖ 1 0・2 2～2 3	月山 六十里越	夏道	記 鏡
㉗ 11・4	一切経山・東吾妻山	夏道	記 岡安
㉘ 11・12	鳥海山 湯の台口から	スキー登山	記 荻野
㉙ 11・14	甌岳	夏道	記 大竹
㉚ 1105-07	明星山	岩	記 布施(香)
㉛ 11・19	姥ヶ岳	スキー	記 大竹
㉜ 11・20	金華山	夏道	記 鏡
㉝ 11・27	いわき丑ノ倉(会山行)	岩	記 布施

①

2022 5月21日

丁山地・甕山（途中まで）

L.鏡、大竹、阿部

出発9時ー前森登山口11時8分ー大カツラ11:37ー帰着14時

及位駅から朴木沢川沿いの林道に入ると、間もなく残雪、落石、倒木で通行不可に。予定より手前から林道を歩くことに。地図に記載の登山道は廃道化しており、書いてない林道を歩いて前森山林道に合流。延々と林道を歩いてようやく登山口。（別の方向から林道に車に入っている人がちらほら。）

登山口から残雪も出てきてブナ林の新緑を眺め、女甕山の大カツラまで。時間切れでピークまで着けずに引き返す。

大竹さんがわらじ祭り用に山菜を採ってくれました。ありがとうございました。

前森山の東面はスラブ状の岩場になっていた。

記 鏡

病後の体力の確認と山菜採り。実益兼ねての山行でした。

加えて、我らが偉大な先達、故今出さんが鳥海山に向かって積雪期の単独行動を起こした出発点。

思いを馳せながら足跡のほんの一部を辿ってみたいと思っの参加でした。

全てを叶えることが出来満足！

鏡リーダーに感謝です。 記 大竹



②

2022 5月29日 鳥海七高山 晴れ

LL 大竹 牧野

行動時間 7:40 祓川～山頂 11:40ー下山開始 12:10～祓川 13:15

土曜日夕方発で矢島駅裏の公園にテン泊。

単独行動で十年以上利用させてもらっているが、芝生、風呂、傍にトイレと水、

とすべて揃った無い雰囲気も良い場所である。

翌日祓川向かう。祓川Pには駐車場テント禁止の立て札があった。

ルートはスキーを外さずに行ける左手七ツ釜の左岸筋を辿った。



七ツ釜小屋を右手に確認し、後は夏道筋を辿る。

けっこうあちこちに登山客が点在していた。

スキー登山者もかなりいるが多くはアイゼン登山者。

山頂手前は相変わらず息が上がり時折立ち止まりながら呼吸を整えまた一步。

やっとの思いで山頂に上がったら、旧会員の聡子さんがいる。

仲間と二人で来たとのことだが、かなり後から出たのに…。

もの凄いハイペース！

これから一旦滑って登り返すとのこと。返す言葉無し。

牧野さんは「付き合ってもいいよ」的雰囲気だが、当方は無視。

下りの斜面は思ったより溝は浅く快適。

それよりザラメで急斜面の抑えがきつく、年齢的に？応える。

下るにつれて溝も深くなり、四頭筋に乳酸を溜めながら七ツ釜小屋の上部まで

降りると、下の方で手を振る若者が…。

なにかあったのかと降りてみると、なんと荻野君！

メールを見て単独で来たらしい。

久しぶりに元気な荻野君に会えてテンションも上がる。

後は往路を滑ったが、途中夏道に立ち寄ってコシアブラをゲット。

下山後片付けをしていたら、小さな紙が車の後部ワイパーに挟まっていた。

荻野君からのメッセージ「8月に仙台に戻ります。よろしくお願いします」

こちらこそ「お待ち申し上げます。お手(足)柔らかに！」

オマケ

帰りに矢島駅に寄って知る人ぞ知る「矢島駅のマドンナ マツ子ばあちゃん」と話していると45分後にサイクル列車が出るとのこと。

これは行かずば…と、急ぎ汗まみれの山姿に靴とヘルを替えて自転車を車から降ろし乗車。

終点由利本荘駅手前の薬師堂まで解体しないままの自転車そのまま持ち込み可である。

(要予約、時刻と列車によってダメな場合あり)

駅員さんやまつ子バアちゃんに手を振られ薬師堂駅で下車。

薬師堂からは矢島まで約23キロ。

駅に戻って鳥海荘へ車を飛ばし汗を流してテン場戻った。

翌日は花立へヒルクライム。

無論&当然バテはしたが、終始青空の鳥海山に見守られ充実した二日間でした。

記 大竹

③ 2022 6 月 2 日 月山

牧野単独

平日にも関わらず、ゲレンデのこぶを求めて、駐車場は半分以上が埋まりにぎわい、

山頂では、7月1日の開山祭に向けて、荷揚げのヘリが何往復もし、夏の訪れをかんじる晴れやかな気候でスタート。



雷注意報が出てたが、午後からかなと高をくくっていたら、10時ころになって、急に冷たい風が吹き始め西の空の雲行きが怪しくなり、山頂直前で雷雲がすぐそこまで迫り、あわてて山頂まで上がり、ちょうど同じく山頂に到着した塚本さんと一緒に作業小屋に避難。そのあと、気温も一気に下がり、みぞれかとおもうくらいの土砂降りの雨。作業小屋でやり過ごす。カップや防寒具があったからよかったものの、気を抜いていたら、かなり寒かったなと感じた。しかし、山の天気の変に備えて、改めて十分な装備が必要だなと感じました。その後もパラパラと降ったりやんだりでしたが、雷は遠くに移動し、姥沢を上り返したり、ゲレンデを上り返したりしながら久しぶりにこぶ練して帰りました。 記 牧野

④ 6月4日5日 船形山 柳沢小屋から船形山頂小屋泊まり 夏道
丸山 単独

例年、この時期は山菜取りと船形連峰の夏道歩きが恒例となっていました。自宅からだで行きやすさで升沢から入ることが多く、毎年計画性も無く気分です突発的に早朝家を出て三光の宮まで、気分が乗れば升沢小屋経由で山頂まで日帰りでもいい汗をかいて、下山後車を駐車してある旗坂キャンプ場の小沢の沢水で汗を流すととても気分爽快になる。やはり、今年もこの土日何も予定が入らなかったのも、誰か適当な山行計画が出ていればいつものようにその計画に乗っかろうと調子の良い事を考えていたら、残念ながら計画が見当たらなかった。昨年秋に坂本さん西さんと3人で層雲峡の御所山荘に日和って一泊した。懐かしい層雲峡。yに入会まもない頃、深野さん坂本さん山田さんと4人で層雲峡の沢登りに行った事が懐かしく思い出された。満天の星空の下源流での焚き火、歌声そして岸壁を果敢に登攀していく深野さんの事など楽しい思い出。たぶん少なからずその事が今回の山行の動機になった。数十年経た今、その層雲峡の源頭の尾根を辿ってみたいと。

普通なら日帰りの行程だが、あえてゆっくりと山頂小屋泊まりの計画とした。

6月4日

あまり早く山頂に行ってしまうと時間を持て余しその日のうち下山しかねないと思い、普段通りのルーティンで朝を過ごす。7時頃から準備を始め8時過ぎに自宅を出る。錦ヶ丘あたりの交差点で車2台が大破している事故の前を通り過ぎるとそのあとけたたましくサイレンを鳴らしながら4~5台の消防車が作並方面へ走っていくのを見過ごして一路山形黒伏高原へ向かう。黒伏高原方面に右折する信号の手前の酒屋さんでウオスキーを買おうと思い店に入るが案の定品揃えが無く諦めかけていたら店のご主人が店の奥から試供品のミニボトルを持ってきて、これで良かったら持って行ってと言う。流石にそれではと思い結局サントリーの角をボトルで買う事にした。あわせて水のペットボトルも買ってそれに移し変えることにした。もちろん試供品もいただいた。試供品はいいちこの限定物らしく初めて見るものだった。なんだこんで、柳沢の小屋に着いたのは10時30分を過ぎていた。小屋の水場でポリタンに水を入れて若干薄曇りの中林道を歩く。柳沢の小屋にもこの林道にもいっぱい思い出があるので断片的に思い出しながら観音寺コース入り口に。やはり入会当初、初冬に、はた坊（すいません、今や某グループのリーダー幡野さんです）と今出たかね（今は安田夫人）さんの3人で、ラッセルを交代しながら祠近くのテンバまでフウフウ言いなが

ら歩いた事なども懐かしい思い出です。

あの頃から幡野さんは山に真摯に真剣に取り組んでいました。

上空には薄いガスがかかっていて、その切れ間から柴倉や最上カゴの岩峰や奇岩が左手にみえてくる。15分ほどの林道歩きも終わり、11時15分頃観音寺コースの入り口に到着。

祠にご挨拶をして野川沿いの夏道を栗畑に向け進む。野川の源流部は雪渓で埋まってる。右手斜面一帯は白髭の素晴らしいブナの原生林が広がっているその気持ちのいいブナの森の中野川の支沢の雪渓をいくつか越えていき、野川本流の雪渓も超えると間もなく栗畑に出る。11時45分一面雪原の栗畑に到着。ガスが出てきて見通しが悪くなったのでここで一服し一応地図とコンパスでルートを確認する。西やんと2人だけの冬合宿、柳沢の小屋から白髭をスキーで登ってから栗畑に滑り降りたあと、スキーを脱いで仙台カゴをよじ登って行った西田リーダーを思い出しながらしばしボーッとする。あの頃、会員数も減ってしまった為か2人だけの冬合宿、夏合宿が多かった。

ここからは右手に笹木沢の源頭を見ながらの尾根歩きとなる。

笹木沢の遡行の終了点がこの夏道になる。ここも懐かしい場所だ。暫く行くと笹木沢の最初の一滴が流れている窪みと下に沢状の切れ込みが、そうだ、ここを上って来たんだと思い出す。実は笹木沢の沢登りはここからが長いのだ。今回も途中までその道を辿る。

右手に笹木沢の源頭を覗きながら夏道は楠峰にほぼ90度右折して行くとこの尾根道は分水嶺となる。右手は笹木沢から大倉川を経て広瀬川～名取川太平洋へ、左手は層雲峡から丹生川を経て最上川から日本海へ。

そうか、今更ながら今回のルートは分水嶺を辿る道なんだと気がつく。

楠峰から仙交小屋跡方面にまた90度近く左へ屈曲する谷筋は層雲峡の本流が上から下の方まで雪渓で埋まっている。超えて行くと右手は大倉川の源頭、左手は層雲峡の源頭。仙交小屋跡から船形山頂への急登の尾根筋の左手はずっと層雲峡の源頭である。この道を辿ると層雲峡も大倉川も流域面積が広いんだなあとと思う。どちらの沢も上流部に大きな滝を懸けているが、仙交小屋跡周辺は穏やかな森が広がっていて、その陰しさを窺い知る事は出来ない。

仙交小屋跡を過ぎると、いよいよ船形山頂へ向けての急登が始まる。

行けども行けどもの急登にたびたび足が止まるが、いつの間にか樹林帯から灌木帯に変わり、やっと上の方が開てきた。鳥の囀りが山頂に近い事を知らせてくれる。

喘ぎながら歩を進めるとガスの中山頂小屋が一瞬見えた。2時30分やっと山頂到着。

いつもながら船形山頂は風が強いおまけに今日はガスで視界がほとんど無い。ので、そそくさと躊躇する事なく小屋の中に収まる。

山頂にいた若者も眺望を諦めて小屋に戻ってきた。気仙沼からきて、升沢小屋経由で上がって来たようだ。この後特に会話も無く僕はビールと試供品の貴重ないちこをお湯割りにしてちびりちびり持参した月刊誌「致知」の最新号を読んでいたら、5時近くに単独の若いお嬢さんが入って来た。外を見るとガスでほとんど視界が無い。風も強まっている様だ。聞くと、北泉岳から三峰を超えて蛇が岳経由で来たとのこと。この悪条件の中よく来たもんだと感心する。ここが私のいつもの指定場所と言って広い小屋の中、袖の狭いところに陣取って銀マットを敷き出す。ほとんど会話も無く3人それぞれに思い思いに過ごす。

小屋にあったカセットコンロの簡易ストーブは小屋全体を暖めるには全く能力不足で、皆んな寝た後寒かったのでちゃっかり自分の手元まで持ってきたがそれでも暖まる感じが無い。

窓の外もすっかり暗くなりますます風も強まっている様だ。なかなか寝付かれないと思いつつも何回か

ヘンテコな夢を見たので少しはまどろんだのだろう。気がつくと、窓が薄らと明るくなっていた。

6月5日

4時にシュラフから出てモゾモゾしていると他の2人も起き出して来た。

外を見ると風も弱まりガスも流れ一気に青空が広がって行くのが見える。なんとなく気分も晴れやかに良い気持ちになる。

朝食も簡単に済ませて荷物をまとめ下山の準備をしながら、他の2人と少し会話をする。

気仙沼からきた若者は初心者様である。帰りは往路を戻すそうなので升沢小屋までの下りの雪渓で埋まっている沢の下り気を付けてねと声を掛けて別れた。

お嬢さんはマイカーを持っていないので、下山路は後白髭から定義へ下りバスで帰るそうだ。藪っぽくやたら長い下山路なのでやはり気をつけてねと声をかけて別れる。自立した逞ましい心を持ったお嬢さんだなあと感心する。ほとんど会話も無かったが、何故だか2人ともとても好感を持てる若者であった。下山の前に山頂に挨拶をしようと小屋から上がると一面素晴らしい雲海が広がっていてその雲海からたっぷりの残雪を纏った鳥海の頭と裾が目の前に迫って見える。右に視線を移すと岩手山の上部がやはり雲海から堂々と姿を見せけている。今回はこれで十分満足と思い山頂を後にする。

下山を開始すると朝露ですぐに全身ずぶ濡れになる。

実は昨日フウフウ喘ぎながら上がってくる間に気がついたことがあった。

ずいぶんコシアブラの木と若芽が目につくなあ〜と。下る途中で少々いただいこうと決めていた。さすがにここまでコシアブラの若芽を取りに来る山菜取りはいないと見える。ほとんど手付かずのコシアブラの木が仙交小屋跡周辺から栗畑まで至る夏道に群生している事を発見してしまった。この時期でもまだまだ出たばかりの若芽が結構残っている。本当に少々だけ頂いてきました。

楠峰を過ぎたあたりで小学生とそのお父さん親子とすれ違う。これから山頂まで行くのだろう。子供さんにおはようと声をかけると元気に返事が返ってきた。良い親子だなあ〜と羨ましく見送る。

笹木沢の源頭の美味しい清水で喉を潤し栗畑の雪原まで戻るとすっかり空には青空が広がっていた。

あとは白髭のブナ林を愛でながら柳沢の小屋に戻るだけ。時間を見るとまだ8時前だった。

コンパクトながらいろいろな思いがいっぱい詰まった良いソロ山行となった。満足😊

記 丸山

⑤ 2022/06/04pm~06/05a

二口 エシコ沢奥の二俣（大滝）まで→戻りは林道へ直登ルート 沢登り

L 西田 坂本

土曜日の午後から自宅を出て日曜日の午後の早い時間のみの「たき火泊」の出来る所

二口穴堂林道のエシコ沢時間決めコース

2022/06/04 午後に用事を済ませそのまま西田号ピックアップされて二口へ

（渋滞の反対車線に装甲車5〜6台も普通車に混じっていた）

いつもの穴堂林道ゲート前には5〜6台の車があるが、土曜日の午後ゲートが開いている。

そろりそろりと車をそのまま走らせているとエシコ沢周遊コース帰りの荻野君や山村さんの後輩5人が歩いてきた。

そろりそろりと走らせた西田号はエシコ沢分岐に荷物を下ろし、ゲート手前に車を戻した。

毎年沢初めのエシコ沢。いつもの日帰りでは無くたき火がメイン

ブンスカおやじ（わらじ祭りで塚本さん命名）に見つかりにくいロケーション最高の場所にテン場を決めた。1時間半後西田戻る。

夜にわらじ祭り前夜祭でも聞いたピーピーという鳥の声と、別な音も聞こえる。ゲートは閉まっているはずの時間だが、林道をすごいスピードで走る重量級の車の様な・・・夜なのに飛行機が飛ぶ音のような異音が何度か聞こえた。何だか不安な気持ちになる。

たき火はいい。

心がザワザワしている時たき火の熾きのチカチカ光る様を見ているうちに穏やかな気持ちになり眠りがやってくる。

6/5 日曜日はさわやかな朝だ。

人気のエシコ沢はもう入渓する人が来ても良い時間だが、まだ来ていない。予定時間より少し遅くテン場をきれいに片付けて日帰り装備で出発する。堰堤を2個越えれば廃車、そして箱庭、ゴーロとぬめった10m滝、沢初めはこの滝は嫌らしい。バランスを取りながら滝上へ。後はナメと小滝最後に二俣の支流大滝。ここがメインだ。西田はこの滝壺がお目当てだ。

西田が、イワナと遊んでいる間に右岸の傾斜が緩い所に踏み跡のような所を見つけた。

地図を見ると林道は近い。少し登ってみると行けそうだ。

下山ルートは、沢を下降せず林道直登ルートにした。最後の林道下は急傾斜の直登となった。GPS上ではすでに林道なのだが地図上の40mも上がったところが林道だった。約20分近いのか？

林道はカーブには鉄板が置かれ重機でも通れるようになっている。このまま奥新川まで道を通すのか、それともただの補修工事だろうか。

本日は伐採作業はお休みでゲートは閉まっていた。

林道を走るカブにあった以外は誰とも会わなかった。

「さいち」に寄って、午後の用事のため帰宅した。

ゲートが閉まっている時は静かなたき火泊が出来る場所がありますよー。

記 坂本

⑥ 2022/06/11～06/12 6月会山行

安達太良山 石延沢 [山行形態] 沢登り

[メンバー]鏡.鈴木.西田.坂本.伊藤(夏道参加)塚本

[行程]●1日目 6/11(土)8:25 駐車場出発-9:10 銚子ヶ滝-9:30 入渓-11:30 2段滝-15:00 1290 二股-16:00 登山道-17:30 鉄山避難小屋

●2日目 6/12(日)8:00 避難小屋発-8:39 矢筈森-9:12 船明神山-12:07 駐車場着

土曜朝の仙台の空模様はどんよりした曇り空。少し雨もあたり不安に思いつつ福島方面へ向かう。

銚子ヶ滝看板の向かいにある駐車場は広々として20台くらいは停められそうだが、今日は私たちの他に一台停まっているのみ。

スムーズに準備をし予定の8時半を前に出発する。

銚子ヶ滝登山口から30分歩くと滝入り口。長い階段を降りると百名爆の銚子ヶ滝。

2段の落ち口下は削られハングしている。先日の雨で水量は多め。迫力がある！

登山道に戻り和尚山へ向かう渡渉地点から入渓。夏道参加の塚本さんに見送られ出発。

入渓からメインの2段滝まではゴーロ歩きが続く。滑りがあるので慎重に進む。釣りの人も多いのか

踏み跡も多い。

時折塚本さんからの無線を拾うが途切れ途切れで内容はまいち分からないが、無事…という言葉は聞き取れたので順調なようだ。

ゴーロを進むと魚影も出てきて、西田さんは竿を出しながら進む。

途中2匹の釣果あり。

2段滝に出る。左岸から鏡さんリード。滝脇に乗り上げるハイステップがかなり遠く、ザックを置いたりしながら何度か挑戦。西田さんのショルダーで越える。

後続もザックを引っ張りあげてもらい越える。

2段目はゆるい傾斜でフリーで登れる。この滝を越えるのに1時間ほどかかる。

滝を越えると癒し系のナメが続く。

ナメが終わると二股まで穏やかなゴーロが続く。P1290 二股脇にテン場の跡あり。自分達も小屋泊用の水を詰めて、今回は登山道に最短の右股へ。詰めは視界のきく笹藪で一瞬の激藪が何度かあるが無事に20分くらいで登山道に出ることができた。安達太良山頂までの登りが疲れた足に非常にキツく感じた。ありがたいことに強風が吹く安達太良もこの日は穏やかで雨も降っていなかった。

1時間ほどかけようやく鉄山避難小屋へ到着する。

小屋にストーブはないが(あとでカセットガスだけ発見)小屋の中はあたたかい。

夕飯の支度をしているとくろがね小屋に立ち寄りビールを買ってきてくれた塚本さんが到着。

沢中で見つけた巨大ウド。コシアブラ。塚本さんが見つけてくれたウルイ。釣ったイワナ。と夕食はとても豪華なものになった。

イワナをバター焼きにしたものをほぐして味つけし、混ぜご飯にしたものが奇跡的なおいしさだった(ウルイとコシアブラとマスタケ入り)

お酒も豊富で賑やかな夜になった。



翌日起きてみると天気は崩れず視界も良好。

朝食は坂本さん特製のトルティーヤ。塚本さんのりんご。

今日こそ雨の予報だろうと和尚山は向かわず、船大神山経由で降りることに。

おだやかな森の中、山タケノコ、採りどきのコシアブラをみんなで探しながらゆっくりと下山。

駐車場に着いて着替えが終わり、車に乗った途端に大雨が降ってきた。

2日間とも雨にほとんど降られずラッキーでした。

最後に反省。

宴会が楽しく飲み過ぎました。夜の会話はほとんど覚えておりません。

塚本さんいわく、どうやら西田さんに山行きたいと絡んだそうで。この場でお詫び申し上げます。また計画を立てさせてください。

記 鈴木

⑦ 2022 年 6 月 25 日 (土) 山域・ルート：二口・大行沢 形態：沢登り

メンバー：L.鏡慶一，後藤遼太

行程：もしもし P 集合 (07:00) = 二口キャンプ場駐車場→大行沢入渓 (08:15) →ゴルジュ→駒止滝 (10:00) →二段滝 (11:45) →ナメ樋の沢避難小屋 (13:20) →裏コース下山→駐車場 (15:25)

個人としては沢初めであり、下部ゴルジュは初見ということで少しばかり意気込んで山行当日を迎えた。駐車場から降りて入渓して直ぐにゴルジュが始まった。二口の沢らしく、若干苔むした側壁のへつりを嫌って積極的に水線際を突破する。が、朝一ということもあり、いくらか体が冷える。そしてゴルジュパートの核心、釜をもった滝に到着。泳いでアプローチしようとするも、ザックが邪魔で泳ぎづらい。空荷で再度トライするが、流れに負ける。下流右側壁から取りつこうとしてみるも、これも無理。すっかり身体が冷え、早々に戦意消失し高巻くことにした。が、この巻き道も悪い。傾斜のある側壁のクラックに登路を見出すが、ドロと苔に苦しめられ敢え無く敗退。鏡さんに交代してもらおう。鏡さんが見事にこなしてゴルジュから脱出。ここでデジカメが浸水していることに気づく。もはやこの時点で内心意気消沈といった次第だが遡行は続く。少しの間ゴーロ歩きをこなすと駒止滝に着く。なんとなくひるんでしまい空荷で突破。荷揚げやフォローの確保の確認も兼ねてロープを出す。ここからは巨岩帯を遡る。ボルダーと巨大迷路のあいの子のような区間をなるべく省エネで越せそうなルートを選んで進んでいくが、やはり疲労が溜まる。途中で休憩をはさみつつ進む。段々と先行者の足跡が目につくようになる。二段滝に着くと先行者を発見。7人程度の大多帯で取りついてるようだ。下段は左壁が最も容易そうだが、滝自体の右にも右上するバンドがあり登れそうにも見える。ということでシャワーを覚悟して取りつくが、案外バンドが途切れ途切れであることに気づく。あと一手で突破できそうにも思えるが、落下した時に背後の大岩に当たるリスクを鑑みるとトライする気になれず諦める。クライムダウンを始めるが、すでにここに至る直前でハイステップで乗り込んだ部分があり、戻るも苦しい。もがいているうちにスリップフォールした。幸い滑り台を四つん這いに落ちるような形で落ちた上に水深のある場所に落ちたのでほぼ無傷だった。一度呼吸を整えてから先行者と同じラインを登る。上部は出だしの一手が多少気掛かりに見えたが残置ハーケンがあったのでヌンチャクかけて A0 で超えた。ここからはナメ地帯に入る。雑誌やネットでも手放しの賞賛を受けている場所だが、個人的には規模は立派だがそこまで美しいナメか？と思ってしまっているが、歩くには楽である。振り返ると鏡さんがナメの抉れた箇所縁に座っている。鏡さんには珍しく、暑さもあって水浴びしているのだろうか。と思っていたが、後で聞くとスリップして縁に胸を打ったらしい。心配しつつもあばら骨は無事(とても重要)ということで遡行続行。ナメに段々と滝のようなものが混じり始めるとほぼ時同じくして小屋が見えた。最後の滝もぬめぬめだがスタンスは豊富なので落ち着いて越える。樋の沢小屋に到着。小屋前の焚火あとで休憩していると、どうも焚火の臭いがする。よく見分してみると消火されていないことが判明。消火活動に当たった。しかもアルミ残滓まで放置している始末。目についた部分を回収して下山を開始した。さて、この裏コース、アップダウンが多いのは承知していたが、途中既存の道が崩落し上に迂回路が設定されていた。これが思った以上の急登で堪えた。そのさきも長々と登山道歩きをこなして駐車場に到着。片づけをしていると労山の合同訓練を終えた朋友会所属の方と鉢合わせた。思った以上に盛況な駐車場の状況にたじろぎながらも着替えて下山した。今回の山行、シーズン初めということで張り切り過ぎた部分が多々あったと反省。また、室内壁通いや基礎トレーニングは行っていたのでそこまで力量が落ちているとは思っていなかったが、やはり歩きを筆頭

にルーファイや荷物を背負って長時間行動するという身体 や頭の使い方は沢に入らないと鈍るものだとして改めて認識した。今シーズンもできる限り沢 に入り、自分の力量を見誤らないように心がけたいと思わされる山行だった。

記 後藤

補追 昨日胸を打ったところがまだ少し痛いです。

教訓：大ナメ沢をナメるなよ！

登山道含めて良いトレーニング山行になったと思います。 鏡

⑧ 2022 年 7 月 3 日 蔵王古道 夏道 晴れ

メンバー L 大竹、阿部

車は大鳥居のそばへ駐車し、大鳥居から 7 時 40 分出発するも暑くて 100m も歩くと全身と顔から汗がしたたり落ちる。とにかく暑い。車やバイクがひっきりなしに通る状況です。バイクは爆音で疾走して行く。道路から吸い込まれるように蔵王古道の入り口を登り始める。別荘地を超え、道路を横断し道路に並行してのんびりと高度を上げていくが、道路を何度も横断するのが怖い、弘法小屋跡の石碑を見過ぎて不動滝展望台へ到着。蔵王不動尊へ祈願後、峩々分岐へ向かう。

ここは道が分かりにくい。途中三階の滝を左手に見ながら進むとすみかわスキー場の分岐 10 時、賽ノ碓の蔵王寺ここでも祈願、こまくさ平、大黒天へ進み、最後の急登です。大竹さんからこの花は何と聞かれるが全く答えることが出来ません。花の名前を覚えれば楽しみが増えて、世界が広がるのだが、何か少しずつ花の名前を覚えよう。まだ山頂付近 残雪を見ながら山頂へ向かう。

大黒天から刈田山頂までは 30 分程で登頂でした。こまくさ平、大黒天からは急に登山者が増えるがどこまで行って、戻ってくるのだろう。最後に刈田山頂でも祈願し、レストハウスでコーラ飲みながらバスの出発を待っていましたが以外にバスに乗る人がいてびっくりした。

山形から来る人が多いので山交バスは満席に近い感じでした。バスに乗りながら杉ヶ峰方面を見ると木が枯れているが多く見える。 将来、どんどん枯れてしまうのか？4 時間 50 分をかけて登ったところをバスは 30 分ぐらいで駆け降りて来ました。 温泉へ入って、えんそうで食事し帰路へ

1300 の高度差 タイム 7:40 大鳥居～9:00 不動滝展望台～9:39 三階の滝～10:00 すみかわスキー場分岐～11:51 大黒天の上部～12:26 刈田山頂

記 阿部

⑨ 6 月 29 日（水）～7 月 01 日（金） 山域： 飯豊連峰 形態：夏道 メンバー 牧野 単独

コース：6/29：川入～地藏山～三国岳～飯豊山往復～飯豊本山小屋泊

6/30：停滞

7/01：小屋～往路下山

下は車も無く本山まで人に会わず。小屋には管理人が来ていた。素泊まり 2500 円で
す開業前で 気持ちだけと言っていました。到着までは天気は良かったが夜に
は風が強くなる。6/30 は大日岳を考えていたが風も強く視界も悪ので一日停滞とする。夕方か
ら天気は 回復傾向に見えてきた。7/1 は視界は良くなったが風は強く稜線では煽られる感じ
だった。

⑩ 7月2日(土)～3日(日) 奥新川：北沢 沢登り&釣り

コース：7/2 奥新川駅～北沢遡行～623m付近泊

7/3 テン場～大尽沢遡行～北面白山・中面白山の科尔～長左エ門平～面白山駅

L 西田、丸山、坂本、伊藤、牧野

(坂本) 奥新川 7 時出発。林道 3 時間、沢に入ってから 3 時間。C623 のゴルジュの手前
に良いテン場があった。釣り組と薪集め組に分かれて準備をする。

翌日は 8 時出発稜線まで 5 時間半。面白山駅まで 3 時間で 5 時の電車に間に合う。

遡行中ポケットに入れてあったスマホが落ち下にいた伊藤さんがキャッチしてくれて
紛失せずにすんだ。沢の中でもかなり暑かった。

(牧野) 1 年振りの沢！岩魚も数年ぶりに食べました。

(伊藤) 北沢は初めてでした。沢の要素が詰まっていた面白かった。チョックストー

ンの滝では荷物のつり上げをする。皆苦労して登っていた。突然何かが落ちてきたので
キャッチすると坂本さんのスマホだった。美味のイワナ丼、イワナ茶づけ、尺イワナのお刺
身と、イワナ三昧堪能させていただきました。

(西田) 雪渓で涼み？にきた熊は 1 才くらいだと思う。

⑪ 7月3日(日) 山域：鳥海山・百宅口 夏道&スキー

田中邦 単独

コース：大清水避難小屋～唐獅子平避難小屋～七高山～唐獅子平避難小屋～往路戻る
ペース上がらず遅れました、汗をかきすぎてバテたようです。七高山までいき新山は
眺めただけ。雪は山頂から唐獅子小屋まで残ったので、最初の滑り出しのワクワク
感は楽しめました。

⑫ 2022.7.9 (土)～10 (日) 会山行 大深沢「仮戸沢下降～東ノ又沢」 沢登り

1.参加者 L.伊藤 SL.後藤 西田 鏡 大竹 坂本 田中(邦) 鈴木 塚本、以上 9 名

2.コースタイム

7月9日(土)：曇り時々小雨、にわか雨

赤川右俣 1147m 駐車スペース S.9:35 ー赤川右沢(ルート相違)ー左沢に戻り S.10:05 ー大深山
荘 A.11:10 / S.11:40 ー陰阻森科尔(仮戸沢下降点) A.12:30 ー三俣(テン場 C992) A.15:30 *行動
時間:5 時間 25 分

7月10日(日) 霧雨曇り、午後にわか雨、本降りのち曇り

テン場 S.8:30—1180m ゴルジュ帯入口 A.10:30—252m 二俣 A.11:15—1300m 二俣 A.11:45—1320m 二俣 A.11:50—藪漕ぎ 5 分—詰め草原—藪漕ぎ 15 分—縦走路 A.12:25—草原 S.12:50—大深岳 A.13:35/S.13:45—大深山荘 A.14:10 /S.14:45—車デポ地 A.15:45 *行動時間:6 時間 5 分



一日目 樹海ラインの車デポ地に、ほぼ予定時刻に到着。先客はなく余裕で車 2 台駐車できた。降雨はないが、山の上はガスっている。トップが後藤君、伊藤最後尾で総勢 9 名様御一行。多人数だとわくわく度が 5 割増しの感がある。赤川はほとんどがゴロで後半にナメットした 5～6 m ほどの滝が出てくるが右岸に残置ロープがあり、重荷でも楽に登れた。大深山荘までは小一時間の沢歩きで、登山道の橋下にひよい

と飛び出す。大深山荘前で休憩後、陰阻森、仮戸沢下降点を目指す。途中、25～6 名の藤七 畚岳方面からきた団体(ツアー客)と遭遇(ガイド 3 名程、行先は松川温泉か三石方面?)。突然の大人数で“びつくり”。道が刈払いされていて広いのは、人気コースだからかと合点。仮戸沢下降点に着くと、ピンクのビニールテープがクマザサに巻き付けてある。なんと下降点の目印。釣師等も大深沢のアプローチに結構利用している模様。



20 分ほどの藪漕ぎで沢形が現れるが、その後も、左右の笹が細沢中央に被っており前が見通せず、少々難儀。沢が開けるまで 1 時間以上かかる。途中女性陣が今宵の食材とすべくフキを取ったりして、15:30 テン場到着。休憩含め 3 時間の沢下り。釣師 3 名(西田、田中、後藤)は三俣で三方へ分散、残りびとは夕食づくりと焚火の番。塚本料理長の創作料理と美味しいなべもの、イワナの塩焼き、ナメロウ等を肴に宴は盛り上がりました。お酒も充実し、特に田中スペシャルは飲み口がよく梅味に誘惑されるのでした。ここまでは良かったが、夜半 2:00～5:00 ぐらいまでは本降り、タープダムが数か所発生。各自寝ながら、雨だれ、シュラフを襲う流水と格闘も、解決策はなく、ただただ、夜明けを待つ状態でした。しかし、西田会長は何度となくダムを攻撃してくれて、タープ崩壊を防いでくれました。衷心感謝。

以上は男性陣の話で、女性陣はタープに守られたツェルトでスヤスヤ!!

二日目

6 時ぐらいになっても雨は止まないが、渡渉点の水嵩が気になり三俣に行くと、確かに、昨日よりは水量が多いが、ひざ下であり、渡れる状態とわかる。もし渡渉不能の場合は、きのう下降した仮戸沢を登り返す選択肢も考えたが徒労に終わり一安心。坂本さんの食が進む定番朝食のつけ麺（今回は中華麺：タイカレー風＋和風）を頂き、テン場撤収。8：30 東ノ又沢に向けて出発。北ノ又沢入口のナメ滝は水量が多いが、東ノ又沢はさほどでもない。出だしから 100m ほどナメが続くが、後はゴーロ主体となってくる。単調な中にも、左岸に咲き誇るニッコウキスゲの群落が目保養となる。二回ほど小休止を取った後、出発から 2 時間で今日の目玉である 1180m プチゴルジュ帯入口に到着。大竹さん手製のわらじの調子もよさそうだ。

後藤君をトップに、8 人が続く。足元は外傾気味だが、手元にはしっかりしたホールドがあり、ザイルの出番はなかったが、一部お助けひもでフォロー、問題なく登れた。その後はまたゴーロが続くものの、段々と川幅が狭くなり、1252m と 1300m 二又は右に入ったものの（正解）、1320m 二又で左に入り間違ってしまった。が、登りの途中、坂本さんが不正解に気づき、右に直登し軽い藪漕ぎで、草原



に出る。最初はスマホ GPS 軌跡から推して右だと思ったものの、一見密藪であり左には水流があったことから楽そうな方を選択してしまった（リーダーの判断ミスです、今後の糧とします、坂本さんフォローありがとうございました）。

なんと草原には咲き掛けのニッコウキスゲと満開のコバイケイソウの群落。寝不足の中、閉じかけていたまぶたが全開。こんなフィナーレは最高です。その後また軽い藪漕ぎで登山道に出、関東森方面に歩を進めると更に広大なお花畑が広がっていた。ここでは、ニッコウキスゲは満開、最高の見ごろでした。



その後、大深岳山頂～一部水場経由で大深山荘へ。小休止後、赤川を下り駐車場着 15：45 分。ザイルを使用する箇所等難所はなかったものの、昨夜の雨で体調が芳しくない中、9 人揃ってほぼ当初計画通り、歩き切ったことが何より嬉しい山行でした。とうございました。（記 伊藤）

木村さん、太田さん、在仙本部ありが

⑬ 2022. 7.19-20 日高 ヤオロマップ～1839 峰 夏道 牧野 単独

【コースタイム】

7/19 ※16 時間 40 分

3:00 札内川ヒュッテ→4:40 夏道尾根二股 5:00→8:00 コイカク山頂 8:20→10:20 ヤオロ山頂 10:50→13:00 1839 峰山頂 13:30→16:00 ヤオロ→18:00 コイカク→19:40 1305 テン場（泊）

7/20 ※3 時間 30 分 5:30 テン場→9:00 札内川ヒュッテ

【装備】登山靴、ザック カップ、沢靴、沢用すねあて、ヘッデン、地図、コンパス、ナイフ、ハット、手袋、ストック、スマホ、バッテリー、水 2 L（夏道尾根から + 4 L）、行動食 2 食分、昼食 2 食分、夕飯 1 食、朝食 1 食、手袋、サングラス、日焼け止め、テント、マット、シュラフ、ダウン、非常装備（ろうそく、エマージェンシーシート）

○概要

全体の行程としては、ぬかるみややぶこぎなど、歩きにくい箇所は多いが、1838 峰まで踏み跡はしっかりついており、道を踏み外さなければ難しいところはないという印象であった。ただし、踏み跡はあるとは言っても、その上にはみっちりハイマツ、カンバやハンノキなどの低木や笹ヤブでみっちりおおわれており、これを漕ぐのに、稜線は常に低木枝のパンチを受けながらの前進で、パンチを受け続けた太ももは散々な姿に、



また、長丁場となるため、水と食料を計画的に補給し、体力をいかに維持しながら進むかが一番のカギとなると感じた。

水は沢からハイドレーションに 2 L、テン泊分と翌日の下山用として 3 L をあげた。

直射日光にはほとんど当たらず、気温もそれほどあがらなかったため全体量としては十分であった。

コイカク～ヤオロまでの稜線では携帯の電波が通じ、天気予報をこまめに確認することができ、大竹さんとも連絡をとれながら行けたので、精神的には非常に安心して進むことができた。



ヤオロ山頂では、高橋さんにお線香をお供えしてきました。

○行程

7/19

3:00 札内川ヒュッテ→4:40 夏道尾根二股

5:00→8:00 コイカク山頂 8:20→10:20 ヤオロ山頂 10:50→13:00 1839 峰山頂 13:30→16:00 ヤオロ→18:00 コイカク→19:40 1305 テン場（泊）

※16 時間 40 分

札内川ヒュッテに前泊、気合の 2 時起き、予定通り 3 時発。

前日ヒュッテ前には工事車両や、沢、釣りの車が数台泊まっていたが、夕方のうちにみな撤収。

誰もいない暗闇のトンネルを抜けて、札内川沿いの登山道に下っていく。

沢の深いところや、堰堤には巻道がしっかりついている。ピンクテープも所々見え不安はない。

一昨日の夜に降った警報級の土砂降りの影響もなくなっており、渡渉もバシャバシャと歩ける。

河原歩きは沢靴（聡子さんに借りた）が圧倒的に歩きやすい。夏道の二股まで 2 時間弱。登山靴に履き替え、沢靴デポ。ここから北海道 3 大急登と呼ばれる濤の急登 1000mUP。

ぬかるみがひどいと聞いていたが、それほどでもない。1500m 付近の一部岩場以外はずっと土道で、自分のスタンスで歩きやすい。岩場も心もとないロープもたれている。

急登を抜けると、いよいよ日高の稜線へ。空は 8 割方白かったが、1839 峰まで見通せる稜線の山並み

が迎えてくれた。

ここからがブッシュこぎ本番。ハイマツ、カンバの低木、笹ヤブが永延と道を覆っている、ひとまずコイカク山頂までたどり着き、ここで水2L、シュラフ、食料の一部をデポ。

くまさん対策で念のため、大竹さんからもらった爆竹を鳴らし、火薬のにおいも残していく。ブッシュをこぎこぎ、2時間でヤオロマップ岳。高橋さんが見つかった場所だ。高橋さん見てるかな？

お線香をあげ、黙とうをささげると、まだ11時。

今夜の雨予報を考えると、18時にはコイカクに戻りたい。13時に39峰山頂リミットと決め、大竹さんにラインで報告、迷いなく1839峰を目指す。コイカクより稜線を望む



ヤオロ～39峰までは、地図の距離はコイカク～ヤオロ間より短く、アップダウンも少なく見える区間だが、

やはり一筋縄ではいかない。ヤブの下に見える踏み跡を見失わないように、ヤブをかき分けながら、黙々と進むも、周囲はガスがかかり、ヤブで前が見えず、目標物が見えず、なかなかたどり着かない。。

所々ブッシュが切れる箇所には、お花畑が広がり、心癒される。

しかし、そんなお花畑でガサガサと大きな音が。

登山道の途中に何度も落とし物をしていた持ち主だろうか。笛と鈴を鳴らしまくっていたら、音はどこかに去っていった。

なんとか1839峰までもう少しという、手前のポコまでたどり着くと、39峰が目の前に高々とそびえたちぼーぜん、「引き返し」の文字が大きく頭をよぎる。

弱気な気持ちを振り払い、気合を振り絞り前に進む。さすがに疲れがでてきて、39峰手前のコルにシュラフとテントをデポ。

それでだいぶ体も気持ちも軽くなり、一気に39峰へ。

リミットより10分ほど過ぎてしまったが、無事に39峰に到着。それまで白かった空に突然青空が出てきた。

20分ほど余韻に浸り、いざ帰路へ。先ほどまで見えていた青空も、また周囲はいつの間にか真っ白に。しかし、景色を楽しむ余裕も、ブッシュにはばまれどうせ視界もないのでそれほど気にならない。

途中、水とエネルギーの補給をこまめに行い、まだ体力には余裕もある。

ヤオロに戻り、坂本さんから送ってもらったYMCA山岳会の歌を高橋さんに捧げ、続けて帰路を行く。

ヤオロに小さい水場があると期待し、水をギリギリしかもってこなかったのが、ここで裏目に。

水場わからず、コイカク手前1時間前に水がほぼ尽きてしまい、心身ともにプレッシャーを感じながら、なんとか戻る。

これが炎天下の稜線歩きだったら間違いなく水切れで悲惨なことになっていただろう。

水の不安もあったが、なんとか予定通り18時にコイカクに戻り、即水分補給。

稜線で雨の中テントを張る気にもなれず、体力もなんとか持ちそうなので、荷物を回収し 1305 のテン場まで下げることにする。

前日の夜は 19 時半まで明るかったので、明るいうちに着けるかと淡い期待をしていたが、19 時すぎるとポツポツと雨が。太陽のあかりも一緒に消えてしまった。

しとしと雨のなかヘッドンつけて 19 時半すぎにテン場到着。着いたとたん本降りに。さっさとテントを立ててもぐりこむ。

これも大竹さんから借りた軽量テント。中は広く濡れたものをのんびり着替え、一段落。

ご飯を食べて就寝。

7/20

5:30 テン場→9:00 札内川ヒュッテ

※3 時間 30 分

夜中の 12 時ごろに土砂降りの雨の音で目が覚める。

樹林帯の中でもごうごうと降り続く雨に、明日の河原歩きに少し不安を感じながらも、また就寝。

朝 4 時、あたりの明るさに目が覚める。

夜中の雨に比べるとだいぶ小康状態になっている。

いそいそと出る準備をし、それでもあとは 3 時間の下山という気の軽さもあり、いそがずマイペース。

5 時半にテント撤収、下山開始。色々濡れたものが多く、少し荷物が重くなったか。

夏道 1 時間ほど下りると札内川到着。雨の影響もそれほどなく、川中も渡渉できるほどの流れであった。

雨はそれほど降られてはいないが、登山靴はすでにびしょびしょ。下山は登山靴のまま河原歩きで帰る。

下りの河原歩きは以外と道が分かりずらく、気も緩んでいたせいか、とちゅう右往左往した箇所もあったが、昨日の山行を振り返りながら、のんびり歩いていると登山口に到着した。

今回は本部の大竹さんを始め、ご心配、応援を頂きありがとうございました。

記 牧野

⑭ 2022・8・7 米子沢 L 木村、田中（邦）、鈴木、他 1

5:50 駐車場出発-6:05 米子沢入口-6:50 40m 大滝巻き-8:30 2 段 20m 巻き-10:30 脱溪.避難小屋
-11:15 山頂-14:50 駐車場

計画ではいい忘れていましたが、同行の梶谷は鈴木の子の妹です。(写真載せています。似てますでしょうか？照)

普段新潟と山梨を中心にフライフィッシングをしているのですが、沢登りをしてみたいと参加することに。

木村さん、田中さんアテンドいただきありがとうございました。

木村さんから報告があるかと思いますが、2 回目の巻きの取り付け付近で、梶谷が拳サイズの落石を顔面に受けてしまい鼻から出血。。

少し経ったら出血は収まりましたが、落石のサイズや状況によっては一大事なヒヤリ



ハットがありました。

不幸中の幸いで、本人もやれるとの事だったので山行は計画通りやり切れたのでよかったですが、今後の安全山行について改めて考える機会になりました。(今日きいたところ鼻は腫れていますが回復に向かっているそうです)

米子沢は駐車場からのアクセスよし。ヤブっばさなし。詰めはナメの天国。ヤブ漕ぎなし。とガイドブック通りの綺麗な沢でした。

(3大デート沢というらしい…?)

沢登り入門の沢と言われますが、巻道が明瞭だからでしょうか？スケールが大きいので初心者だけの入渓は厳しいように感じました。

また行きたい沢の一つになりました。

記 鈴木

***2022年8月7日 米子沢 落石事故報告書** 2022/08/17 水 10:11 記 木村

●事故発生の日時

2022年8月7日午前8:30分頃

●現場の状況(滝、スラブ状、高巻など)

滝の側壁 高さ7~8m 傾斜75° くらい

●各人の配置など

田中:落ち口から2~3mのところにあった灌木に 支点構築中であった

木村、鈴木、梶谷:支点のほぼ真下、側壁に張り付くように三人並んで立っていた

●落石の程度、原因など

拳ほどの大きさの石が1つ田中の「ラクッ」の声から2~3秒後に落下、梶谷さんの顔に当たった。

●当時の怪我の状況

鼻から出血、感覚あり。目立った外傷はないがかえって内部の損傷が心配された。出血はすぐ収まった。

●事故後の判断、対応

標高1390m付近でゴルジュ帯の最終部分であったことと本人曰く、以前鼻を骨折したことがあるがその時より痛くないと案外冷静だったのでまずはゴルジュ帯を抜けることにした。ゴルジュ帯を抜けてGPSを確認する。下手にエスケープするより予定通りのルートを進むのが最も良いと判断しそのまま遡行を続けることにした。退渓後はすぐに下山するつもりであった。鼻は少し腫れているようだが鼻は通っているとのこと。御姉妹は最後まで元気一杯で登頂してからの下山となりました。

●診察の結果と治療について

鼻骨骨折疑い、全治不明、痛み止め等処方

治療費等2000円ほど。会社から保険金が出る とのことので他の保険は使わない方向になっています。

●原因

側壁を登る場合は浮石に注意する。水流から離れるほど浮石や堆積物が多くなる。

落石が落ちてきそうな場所にいない。

土曜日は鳥原小屋への登りの途中で小雨。昼前に小屋に着きましたが、管理人さんは不在。他の客もなく小屋独占で午後はしばらく昼寝。夕方からゆっくり飲み会と夕食。翌朝はすっきりと晴れ絶好の登山日和となりました。つらい登りの小朝日までは誰にも会いませんでしたが、小朝日からは他の登山者と続々すれ違うように。ほとんどの人が小さいザックで日帰りのようでした。

予定より早め、9時に大朝日に登頂、大展望を楽しむことができました。山頂付近は風も涼しく別天地でした。

下りも順調に13時頃に駐車場に戻りましたが、やはり長い下りは脚に堪えました。

伊藤さんお世話になりました。

記 鏡



⑩2022年8月22日（月）～24日（水） 山域：奥秩父（瑞牆山、小川山） クラッククライミング

メンバー： 布施香織 他2名

3人で瑞牆、小川山クラックツアーにいきました。

自分とはクライミング力、心の強さがかけ離れた2人と一緒にでした。

3日間、天気に恵まれクライミングを堪能できたのですがやっぱり全般的に湿っていて、それを理由にトップロープをする、やっぱりリードをする、2人の素晴らしい登りを見て自分も頑張りたいという気持ちと、自分の身の丈にあったクライミングをしないといけないのではという葛藤が続く乙女心？はゆれすぎました。

お休みが違うので、頻繁には一緒に行けませんが、2人とのツアーは、スキルだけでなく、心が鍛えられ、嬉しさとか悔しさがいれまじり、帰る時には自分もっと強くなりたいと思って帰ってきます。この気持ちを忘れないようにしたいと思いながら帰ってきました。 記 布施香織

⑪ 2021/09/17～18 南会津保太橋沢報告とロープの件 沢登り

メンバー 坂本育子、西田猛和、後藤遼太、(仙台 YMCA 山岳会)

他2

09/17（土）

仙台 6:30-南会津保太橋沢駐車場 11:00-1036m 下 幕場 16:00

保田橋沢は滝とゴーロで時々スリリングな巻きあり、腰まで浸かるゴルジュありでコンスタントに高度を上げる沢でした。

その中で10m 滝は右岸を高巻き 20m の懸垂下降になった。

3人目が懸垂時に足をかけた大きな岩がゴロン・バキ・バシャーン落とした。

全員降りてみるとザイルがすっぱり5m 切れていた。もう少し上からもささくれていた。

下に後藤君がいなくて良かった。

30m 位になったザイルを駆使してミニゴルジュの泳ぎとシャワーまたはザックつり上げ、へつっての突破などなかなかの初日でした。

入渓後5時間で1036mの三俣手前に良い幕場を見つけた。

薪がふんだんにあり星が瞬く暖かい夜でした。

焚火で作る松木さんのむかごご飯と焼き肉、みそ汁がうまい。

いつものように焚火そばで西田と後藤君がお休みなので、タープ&ツェルトはさかもと一人でのびのび・・・

朝方、三日月が出た。

09/18（日）

Lのお達しで7時出発。直ぐに三俣で左股の三岩方面に向かう。

その後すぐの二股でゆっくり足取りの坂本と松木さんの二人はエスケープルートへ足取りの早い3人はそのまま三岩岳方面へ別れた。

エスケープルートはゴーロだけで何もなく2時間ちょっとで登山道へでた。

しばらく、お茶を沸かしのんびりしてゆっくり下山。

途中、11時過ぎ登山道へ出たとのSM。2時間かからずに下山したようだ。

駐車場に着くと同時に台風14号の影響なのか土砂降りになった。

小豆温泉窓明の湯で合流し、関東組の2人をバスで見送り後帰仙した。

4月に続き今回の窓明山山域の沢で松木さんの心の宿題は終わったようです。

同行してくれた西田と後藤君には感謝です。

良い沢でした。

保田橋沢の懸垂下降中で切れた7.1mm×40mのザイルですが、どうしたらよいでしょうか。

記 坂本

⑱ 2022/9/17～18 鳥海山 ビヤ沢 沢登り

L 荻野、 田中、 伊藤

17日

9時：湯ノ台口1台デポー10時：奥山林道日向川・鹿俣川合流点付近で入山ー11時：鹿俣川取水口で入溪ー14時10分：F5ー15時45分：F9赤滝ー16時：赤い水の支流ー16時半：1000m付近で幕営
9時前に湯ノ台口につくとほぼ満車。秋晴れの鳥海山に方々から人がつめかけている。スキーを背負った!?人もいた！なんとか一台駐車し、麓まで下る。せっかく1200mまで上ったのに、入山点は400m。奥山林道はよく整備されたダートで、日向川に鹿俣川が交わる辺りから入山。立派な吊り橋を渡ると、奥多摩かと見間違ふほど歩きやすい山道が続く。小1時間で鹿俣川の取水口に出た。山道の整備も納得。鹿俣川の本流はかなり冷たいが、すぐに分岐して右手のビヤ沢に入ると、適温。出だしから巨岩帯が続く、汗が吹き出す。F1は右岸を巻く。菱形のF2は水線左を快適に登る。直瀑のF3は再び右岸巻き。いずれの巻きも腕力を要して、暑さとダブルパンチ。この辺りはイワナがいて、人慣れしていないのか警戒心が薄い。くの字のF4の釜では田中さんが大イワナを目撃するも及ばず。釣果はいずれも小ぶりで、この日はすべてリリースしていた。つづく7mほどのF5は右手の側壁に活路を見いだすが、少し悪い。空身で無理矢理身体を引き上げてロープを張った。やや手こずったが、滝を越えた時点で14時過ぎ。ほぼ計画通り。

F5上部は傾斜が緩んでゴーロ地帯となる。左手にいくつか支流を分けると再び滝が続く。5～10m程度のF6～F8はいずれも容易に登れるが、次第に石が赤みがかり、藻のようなものが付着してとんでもなく滑る。急速にペースダウンするが、水がまずそうで泊まる気になれない。そうこうしていると15m直瀑F9が現れ、右岸のルンゼから巻く。まもなく左手に赤い支流があり、その上部は水が澄むとともに、深いV字谷ながらも、谷が開けてきた。幕営適地を探す、斜度のある巨岩帯で探すのに難儀する。ゴーロの中州で妥協しようと思ったが、田中さんが左岸のフキの群生を開拓して、快適なテン場を作って

くださった。左岸の尾根から 15m の直瀑で支流が合流するあたり。結局、計画通りの 1000m 付近で幕営。満天の星空が素晴らしかった。

18 日

8 時：出発ー8 時 20 分：F10ー9 時：F12 白髪滝ー10 時：1340m 分岐・70m 滝ー12 時：F20ー12 時 20 分：1600m 雪渓末端ー13 時半：1850m 雪渓上端ー14 時 45 分：外輪山ー15 時半：湯ノ台口下山

初日に稼いでいたので、谷底に日が差し込む頃のんびり出発。幕営地より上は明るい谷だ。巨岩をこなしていると、すぐに F10 に遮られる。瀑芯の巨岩を利用して、最上部のみ右岸を小さく巻く。トイ状の流れを進むと、前方を幅広の滝が塞ぐ。白髪滝（ザンバラ滝）だ。右側は階段状だったので取り付くが、岩はヌメリ、シャワーもあってやや緊張する。登ってみると案外高度感もあったので、ロープを投げる。ツルツルの岩と格闘して残りを登ると、透きとおった美しい鎌を持つ 10m 前後の連瀑帯。岩が日に照らされて熱いが、いずれも快適に直登できてぐんぐん高度を上げる。いつの間にか森林限界を超え、幕営できそうなお花畑を過ぎると、1340m の分岐。左手には 70m と 100m ともある巨瀑。下部は容易そうに見えるが、落ち口は直瀑で登れそうではない。右岸の巨石混じりの草付きを這い上がる。高度感があって少々怖い。

滝上からは、ラストと思われる F20 の 5m オーバハング滝を遠くに望みながら、さらに高度を稼ぐ。高層の秋雲と低層の夏雲の間にいるようだ。太陽はじりじりと暑い、次第に雲に追いつかれる。

遠くからは登れそうには思えなかった F20。その評価は近づいても同じだった。左岸のネマガリタケ・ハイマツ・ナナカマド・・・“藪”がそろい踏みする急登とトラバースをこなすと、小滝をいくつか挟んで、ようやく雪渓末端。ビヤ沢の雪渓は、地形図の表記上、鳥海山でもっとも長く大きなマークとなっている。万年雪に違いない長大な雪渓を登り切る頃、雲が取れて外輪山が見えた。ハイマツ帯を避けて、ガレ場と草原を繋ぎ、重い体を一步一步持ち上げる。庄内平野は黄金色に色づき、海は傾き始めた日を反射して光っている。千蛇谷に雪は無く、冬はピラミダルで堂々とした稲倉岳もなんだかおとなしい。あとは下るだけ。登山道に雪渓は残っていなかった。なんとか日没前に下山。

2 日とも秋晴れに恵まる最高の条件で、“秀麗無比なる”（秋田県民歌の歌い出し）鳥海山をえぐる谷を登りきれました。巻き道に踏み跡の気配も無い隠し沢です。（なぜ 20 年も Y で登っていないのか不思議です、）

容易ではなく、かといって困難でもなく、標高差 1700m・変化に富んで充実した山でした。 記 荻野

①9 2022 9/28 日（水） 場所：一切経山、東吾妻山吾妻山 メンバー：香織 形態：夏山登山

概要：天気は、晴天。行動時間：9 時スタート、6 時間半

浄土平ビジターセンター →一切経山→（鎌沼経由で）東吾妻山→浄土平ビジターセンター

感想

昨日は、はじめて、6 月から家族になった犬（さん）を連れての山行でした。天気がよく、とくに、一切経山の頂上からみた五色沼、東吾妻山に向かう途中にとおった鎌沼の景色がすばらしく離れがたく休憩がついつい長くなってしまいました。紅葉ですが、全体的にはまだまだ、鎌沼あたりは黄色に紅葉していてうっとりでした。

帰りは高湯温泉に入って帰りました。（花月ハイランドホテル内）

お勧めされていた鷲倉温泉がその日は休みで、あったか湯も休み、なんとか探しあて、このホテル

の温泉に行きました。高いから迷いましたが、淡い乳白色で、硫黄の香りがただようすごくいいお湯で行って良かったです。

自宅から2時間弱でこんな素晴らしい景色と温泉に入れるなんてやっぱり仙台、最高です。

クライミングばかりに時間を費やさず、さん(sun)と一緒にたまに山歩きもしたいと思ってかえってきました。

記 香織

②⑤ 五葉山 2022/9/26.27 形態：夏道登山 山域：岩手県大船渡市・五葉山

天候：曇り 18°Cくらい メンバー単独：塚本たかね

一日目:

13:45 大沢の橋～14:25 大澤小屋～16:40 畳石～17:40 石楠花荘 (4 時間)

二日目:

石楠花荘～5:20 日の出岩でご来光～朝食タイム

8:40 石楠花荘～黒岩～登山道を外れキノコ観察(本部・太田さんへ中間報告)～大澤ルート下山

15:10(キノコ含む 6 時間)

報告:

一日目:

爽やかな秋晴れ。前日の泉ヶ岳トレラン大会(12 キロ)の疲れが響き遅い出発。山栗が大量に散らばっていて鹿が走り回る。道中登山道からの景色が美しい山でした。道中誰にも会わず、足元には新しい猪の足跡だらけにて、鈴を鳴らして歩く。ヤマドリタケとマスタケを Pasta にして食す。

二日目:

日の出岩にてご来光。小屋に戻って朝食。8:45 出発 黒岩付近の木々が覆い茂って足元分かりづらく、進むのに時間がかかった。稜線の紅葉がうっすらと始まり出していた。標高 900 あたりにマスタケがちらほらと、森にオレンジ色が映える。遠くにヤマブシタケ発見登山道を外れる。天然椎茸。マスタケ。ヤマブシタケの足元に舞茸。強烈な匂いキノコハエ大量だが持ち帰る。全てが人生初収穫。興奮し過ぎて鼻血が出そう。キノコに誘われ谷へ吸い込まれて行くので我に帰って太田さんにショートメールを入れる。登山道に戻り下山していると、天然松茸これも人生初。目が血走るが、全てのキノコが偶然の発見であり、探そうとすると見つからない。キノコの神様に見そめられたビギナーズブラックな山行でした。

追記・場所が良かっただけなのか？今年は豊作かもよ？と、秋が忙しいです。

記 塚本

②① 2022/10/03 件名：Re: 10/1 (土) 黒伏、三十路ルート報告

場所：黒伏、三十路ルート (11 ピッチ) メンバー： 布施香織 他 1

形態：アルパインクライミング 天気は、晴天。

■もしもしぴっと 400→(トンネル前 515) ■三十路取付き(中央ルンゼと共通) 600

■登攀開始(630)→登攀終了(1430) ■登山道経由で下山 1730

感想:

>>> 先週のリベンジで黒伏山三十路ルートにいて、今回は、11p、完登できました。

登ってみて、振り返るとこのルートはクライミングが難しく、日頃山寺で、あきずに来る日も来る日も同じルートを登っていることが力になっているんだと思えました。（フリーでは、抜けてませんが、力を試せる変化にとんだ素晴らしいルートでした）

ブッシュに入ってくワイルドパートも結構あり、自分がリードするとあってるか不安になり、スピードががた落ち。

一方、日頃、沢登りで鍛えてくるくみさんは岩の弱点をつかみ、迷いがなくどんどんすすめる。

センスの違いか、経験値の違いか課題がのこりました。

私が奇数ピッチを担当、8、9は、パートナーがつなげてくれたので、10pは私、最終ピッチはパートナー

前回敗退した6pまでは、快適にいいスピードで登れました。

> こうして二人で力をあわせて、630に登攀をスターとしてオール鶴瓶で取りつきから8時間でトップアウト。

大体1ピッチ（トップとセカンドで45分）で登っていることになります。これぐらいのスピードで登らないとこの時期のマルチは明るい時間に降りれこれないんだと思い、時間を気にすることの大切さを実感しました。

ふたりとも初見のルートを作戦をたてながら自分達の力で登りきったことが今回もとても嬉しかったです。>>>

全ピッチ、終了点が千葉さんが新しくしてくれてました。

難しいパートもボルトがきれいになってたのでありがたかったです。

>>

1p～3p快適に登りました。

4p やさしいけど、ピンが乏しい。

5p 石も少しもろく、クライミングも難しいが、きれいなボルトになっていて、楽しい。

6p ハング越えもあるし、やぶもあるしで、ルーフアイ大切ピッチ。

7p 出だしが悪く、一番難しかった。最後も左にいくか、藪に入るかで迷い泣きそうになる。

迷いに迷った末、やぶを除くとリングボルトがあり、ルートが間違っていないことがわかり安堵した。

（実質10c）

8p、9pつなげられるピッチ、難しくないけど、ルーフアイが必要。

10p 適度な難しさのピッチ

11p 適度な難しさのピッチ。ボルトがきれいなので、思い切って登れる。

>

今回は、トンネルからアプローチし、50分でとりつきに到着しました

道もすっきりしててこっちのほうがぜったい楽でした。

6時35分登攀開始→14時半にトップアウト。藪がひどく、登山道に出るまで、1時間ぐらいかかった。

（15時半） 登山道経由で駐車場17時半到着。

記 布施 香織

㊥ 10月9日（日曜日） 虎毛山 山行形態： 夏道登山概要：行動時 曇り

メンバー（4名）： 丸山 、西田 、坂本 岡安

時間 7 時間 14 分(移動 6:時間 10 分)、距離 15.8km

6:15 大和ヨークベニマル出発 7:52 赤倉沢林道登山道入り口駐車場

登山開始 8:50 赤倉沢徒渉点： 林道は一部工事中 10:21 分岐 11:13 虎毛山頂小屋、昼食 11:58 山頂（小屋のとなり）12:07 下山開始 13:56 赤倉沢徒渉点 15:10 赤倉沢林道登山道入り口駐車場 下山 鬼首 目の湯 17:50 大和ヨークベニマル着、解散

感想 その 1（岡安）

会山行に初参加した。初の虎毛山で、紅葉と湿原風景を期待し登った。

赤倉沢林道登山道入り口の駐車場は、すでに満車状態で、隅になんとか駐車することができた。

登山口から林道までは青空も見えていたが、赤倉沢徒渉点から尾根の分岐に着いた時は、山頂付近は雲がかかっていた。

尾根沿いの紅葉を楽しみながら歩いていると、やがて山頂山頂小屋が見えてきた。小屋に入り、西田さんが雨戸を開けると薄暗かった小屋内がとても明るくなり、新しい板張りであることがわかった。さっそく

ビールで乾杯し、坂本さんが作ってくれたもつ煮を温め、美味しく頂いた。体が温まったところ

で小屋からでたが、冷たい風のため体がすぐに冷えた。さっさと山頂での写真を取り、湿原を少し散策したところで、下山を開始した。

今回、山頂の湿原を楽しみに登ったが、ガスのため絶景を拝めることができなかったのが少し残念だった。初会山行でしたが、ベテランの皆さんと一緒に行動できて、安心して楽しく登ることができた。ありがとうございました。次回は沢登りで虎毛山に挑戦したいと思います。

帰りは、秋の宮で日帰り温泉を探したが、閉店や連休などの理由で日帰り入浴できる施設がなかった。結局、鬼首温泉の目の湯で入浴して帰路についた。 記 岡安

感想 その 2(丸山)

赤倉沢林道はかなり奥まで護岸工事が入っていて、渡渉点より下流は沢としてはもはや死んでいます。無責任な発言になるかもしれませんが、何故この護岸工事が必要なのか非常に疑問に思います。渡渉点からの急登が終わる P 1234 は高松岳との分岐点だが高松岳方面はトラロープで通行止めになっている。ここから登山道はしばらく虎毛沢源頭の稜線歩きとなる。

長く続く虎毛沢の深い切れ込みと源頭一帯の広がりをししばし感慨深く眺める。またこの切れ込みを詰めてここに立てる事が出来るだろうか？

山頂小屋の中が新しくとても綺麗だったので驚いた。

日差しがなく薄いガスの中山頂の池塘群を眺めに行ったが、寒さで途中で引き返した。

終始先頭を岡安さんに歩いてもらったが、自分のマイペースでどんどん行ってしまう事なく、適度にチラチラと後ろを気遣いながら常に全体のペースに気配りをされていました。

しっかりした足取りで、かなり余力を持った登り方だなと、気配りとともに感心しました。

また一人頼もしい仲間が出来た様ですね。

自宅に戻ってからあらためて地図を眺めていて、泥湯起点で小安岳から高松岳山頂小屋泊りで帰りは山



伏岳経由で泥湯に戻ってくる周回ルートが気に入りだしました。

今月末の土日で天気が良さそうで、同行者がいる様で有れば行ってみたいなあ～記 丸山

㊸ 10・15 雁戸山 単独 鏡

雁戸山、八方平まで行ってきました。

ちょうど紅葉が見頃で楽しめました。特に南雁戸から八方平が錦の絨毯となっていました。

笹谷峠から北雁戸は登山者多数でしたが、新山登山道と南雁戸・八方平は静かでした。

午前中は頂上が雲の中でしたが、午後から晴れました。

こちらは北雁戸沢源頭の斜面。

記 鏡



㊹ 10・16 蔵王古道 単独 大竹

若い人は「何？それ」と言う半世紀前のミュージカル映画の挿入歌に「もうすぐ17歳」と言う歌の歌詞「I am sixteen going on seventeen」。

僕の場合は I am sixty going on seventy を遠に越してもうすぐ I am seventy seven・・・

前置きが長くなったけど、数日前ビデオでその映画を見ながらそんなことが頭に浮かび「いっちょ 気合い入れに」と

鳥居 to 鳥居にチャレンジしてきました。

目標は「もう一度、4時間切り！」

行動の結果は下記のとおりでした。

タイム

大鳥居ー滝見台ー不動様ー嵯々温泉分岐ー澄川スキー場
下一賽の河原ー大黒天ー 山頂鳥居

0 1 h 03 1 h 18 1 h 34 2 h 14
2 h 36 3 h 23 3 h 58

と言う訳で、タイムが3時間58分と本当にぎりぎりのセーフ！

最後の山頂直下の不規則階段で死に物狂いで頑張った甲斐あり。



危なかった　けど2020の8月29日以来の4時間切りは本当に嬉しかったです。

13時発のバスでハイラインの白骨樹林帯を悲しい思いで眺めながら下山。

ハイラインは車の数珠繋ぎ停滞。紅葉は下部は未だ。峩々温泉分岐から上が見頃でした。

記　大竹

㊥ 10・19 蔵王 山小屋巡り　大竹 牧野

後見登山口（8時頃）～井戸沢・澄川渡渉～股窪～澄川渡渉～清溪小屋～一高小屋～井戸沢下降
～学院小屋（11:45頃-13:00過ぎ）～エコーライン～観光道路～後見登山口（14:30頃）

報告

すみかわスキー場でエコーラインから外れてダート路を走り、山想会小屋近くの登山口から行動開始。
気温は低い。

風花の舞う中、井戸沢を渡り、尾根一つ乗り越して澄川を渡る。

何度かアップダウンを繰り返すと4差路の股窪分岐である。

まっすぐ行けばろうづめ平、左は烏帽子スキー場。

ここまではマイナーなコースにもかかわらず、しっかりと刈り払い整備されていた。

我々は、目指す小屋のある右へ。

ここから先は整備の手は入っておらず、倒木や藪っぽいところもあった。

歩くに問題はないが、細いトラバース道が続き、注意を要する。

何度か小さな沢を越しながらしばらく進むと、前方下に澄川が見えてきた。

澄川の渡渉は石伝いに問題なく渡れた。

渡った先の登山道から下の川面を覗くと、4、5匹の大きな岩魚がゆったりと泳いでいるのが見える。

ウン年前に沢登りで遡行した時も、かなりの上流部まで岩魚が走っていたのを思い出した。

ここから先は、再びきれいに刈り払いがされているが、釣り師のため？　まさか・・・。

金吹沢を越え、突き当りを右に進む。

しばらくして左手の枝道に入ると、すぐに第一の小屋、清溪小屋だ。

以前訪れた時同様、小屋脇の沢は背の高い笹のような藪に囲まれ、冬とは全く異なる景観を見せている。

入口への階段は積雪期に合わせて高く、冬に訪れた時、階段より高く入口上部まで雪に埋もれたドアをみんなで苦労しながら除雪したことを思い出した。

本道に戻り、木道のかかった小さな湿地帯を過ぎると、木立の上から一高小屋の屋根が顔を出していた。

やはり一高の小屋はでかい（登山道での案内標識は「いどさわ小屋」とある）。

小屋脇の道を通り裏手から急斜面を降りる。

前に降りた時は、藪っぽくけっこうスリリングな井戸沢への下降だったが、今回は道も整備され新しいロープが下まで付けてあった。

しかもロープの滑り止めとして、各結び目には掴まりやすい



ように穴を開けたゴルフボールをロープを通して付けている。

OB にゴルフ好きの人でもいるのだろうが、初めて見る工夫でとても面白かった。

ここからミニゴルジュっぽい井戸沢を下る。

水浅ではあるが、やはりここは長靴が欲しいところ。

この小さな沢にも岩魚が走っていたのにはびっくり。

気温が低めなので足元が濡れないよう注意しながら下って行くと、左手上部に人工のポールが立っている。

藪っばいが登る道筋も見える。

沢から離れ、若干急な道を辿るとすぐに道筋ははっきりし、しばらく進むと立派な小屋が現れる。

木村君“御用達”の東北学院小屋だ。

頑丈そうなコンクリートベースの、見上げるような大きく立派な3階建ての小屋である。

おそらく1階は用具や薪などの物置か？

コンクリート階段を上り、2階入口の窓から中の様子を見ると、台所やテーブルなどが見え、いろんな生活道具と共に飲み残ったウイスキーの瓶が一本ちょこんと置いてある。

けっこう生活感があり、少なからず利用している関係者がいるのかもしれない。

到着時刻は12時前。出発が8時過ぎだったので、ここまで約3時間半ぐらい。

小屋前はちょっとした広場になってバーベキュー台や切り株椅子が多数あり、有難く利用させていただき、おでんと牧野さん手製のおにぎりでランチ、そしてコーヒータイムで、1時間ほどまったりする。後片付けをし、小屋からの道を登ると、大黒天よりちょい上部のエコーラインに出た。

後は大黒天から観光道路に入り、ひたすら下り車デポ地へと向かった。

早くも紅葉の旬は過ぎ加減ではあったが、辿る人がいないであろうマニアックな周回ルートを満喫した山行だった。

記 大竹



②⑥

2022年10月22日、23日

六十里越古道 10/22 LL 鏡、大竹、坂本、牧野

10/23 LL 鏡、坂本、牧野、西田、岡安

行程・タイム

10/22

松根八幡神社出発(9:40)―追分石(10:30)―十王峠展望地(11:30)―大綱注蓮寺(12:18)

大綱大日坊(13:06~14時頃)―塞ノ神峠(14:46)―田麦俣(15:15)―七ツ滝駐車場着(15:38)

10/23

七ツ滝駐車場出発(8:00)―国道スノーシェッド通過(8:40)

―細越峠(10:05)―遥拝所(10:26)

旧湯殿山ホテル着(11:20)



報告

月山一周道の一環で六十里越古道の計画は意外に多くの人に参加してくれた。一日目の松根から田麦俣のコースは一行4人となり、軽自動車2台でちょうど良い。好天の下、月山道を走るとすっかり色づいた月山の山懐が眺められた。田麦俣の七ツ滝駐車場に1台を置いて、スタート地点の松根八幡神社に向かう。神社の前には数台止められそうなスペースはあるものの完全に民家の前なので、少し奥の農道脇に止めようとしていたら、民家のおばあさんが前に停めていいと言ってくれたので、ありがたく駐車させてもらう。時々六十里越えを歩きに来る人はいるようだが、自分では歩いたことはないとのこと。

神社にお参りした後、横の農道から六十里越古道歩きのスタート。歩き出してすぐに栗のイガが散らばっていて一同の目の色が変わるが、大きな実はすっかり拾われたあとでわずかに残っているのは虫食いばかり。所々に旗のぼりや道標、案内看板、俳句看板が立っている。国土地理院の地図にはこの部分十王峠までの道が記載されていないのだが、実際はしっかりした道であり迷うことはない。ぽかぽか陽気で汗ばみながら歩いて行くと尾根沿いの道になり、時折展望が開ける。十王峠の手前で谷道と峰道に分かれるが、眺めの良さそうな峰道に入ると、一旦車道を横切り「鰻の背坂」を過ぎると背後に庄内平野と鳥海山の景色が広がった。登り切ると十王峠の展望地で、今度は大網方面から月山湯殿山に開けている。六十里越、大岫峠は遥か彼方だ。古の旅人も先を思っただけでなく、自分では歩いたのではないだろうか。

十王峠の下りには「イタヤ清水」が湧いている。名前の由来は「諸説あります」らしいが、小さなかわいらしい石の

下り切ると注蓮
っそりしていた
俣ばれる。芥川賞
も少ないようだ。
の立派な山門を
て変わって参拝
仏「真如海上人」
らと坂本さんと
僕は外のベンチ

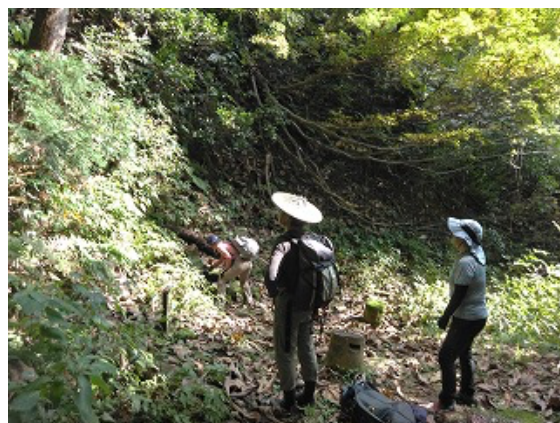


「六地藏」が見守るおいしい水だった。寺。お堂は閉まっていて誰もおらずひが、彫刻などの立派さに往時の繁栄がの森敦「月山」の舞台も今は訪れる人しばらく車道を歩いて大日坊へ。茅葺くぐって中に入ると、こちらは打つ者がひっきりなしに訪れている。即身が目当てなのだろうか。せっかくだか牧野さんは拝観に入るが、大竹さんとのんびり休憩する。

ちょっとした「ミイラ」見物かと思いきや、二人がなかなか出てこないでやきもきしているうちに、さっきまでのぽかぽか陽気が一転、雲行きが怪しくなってきた。待ちくたびれた頃に二人出てきたが、お坊さんの講釈がなかなか念に入っていて時間がかかったとのこと。行程再開と腰を上げたと同時にぽつりと来たと思ったら本降りになり、あわてて合羽を着る。田麦俣へはもう少し。車道を歩いて関谷から林道に入り、山道をわずかな登りで塞ノ神峠。こちらは林の中の小さな峠で展望は特になし。

幸い雨は小降りとなり、国道を横断して田麦俣の集落へ。かつて殿様が渡ったという橋から紅葉の谷を眺め、茅葺の多層民家「遠藤家」の前を通って、坂道を登り返して、今日の終点七ツ滝駐車場だった。朝とは変わって山々に霧のからむ秋の山里が眺められた。

大竹さんの車でまずは松根に戻り、神社前の家のおばあさんに挨拶して車を回収、そこから近くの「かたくり温泉ぼんぼ」で汗を流す。秋の日は短く、志津のキャンプ場に



向かう頃には暗くなっていた。

月山道路はまた雨となり、稲妻も光っている。人気のない志津のキャンプ場に侵入、大竹さんが「あづまやがあるはず」とのことで奥に進むとちょうど雨をしのげそうな大きいのが立っていて、占拠する。ここまで付き合ってくれた大竹さんは仙台に帰る。テントを一つ立てて準備しているうちに、西田さん、岡安さんが到着してキャンプとなった。雨も徐々に止んできて、快適なキャンプとなるはずだったが、ここで大量のカメムシが登場。いやカメムシたちの住居に我々が不法侵入した形だろう。彼らの習性として熱のある方に集まるようで、ガスバーナーを燃やすと民族大移動よろしく一斉にそちらに寄って行く。岡安さん提供の薪で西田さんが焚き火を始めると、今度はそちらに向かって行く。とにかく食べ物飲み物にだけは入れないように、こまめに食器の蓋をしながらの夕食となった。せっかくの牧野さんの芋煮汁、坂本さんのおつまみもおかげで味わい半分となったのはちょっと残念だった。テントにも奴らが入ってくるのは必至とあって、岡安さんと僕以外の3人は車の中で寝たようだった。

夜中には星空となっていたが、朝もいい天気。昨夜はわからなかったが、キャンプ場の周囲もきれいに紅葉している。7時前に行動開始、志津に車を一台残し、田麦俣に移動する。しかし天気予報は怪しげなので、途中の湯殿山入り口にも一台をデポしておく。

七ツ滝の駐車場に着くと同時にかなり本降りの雨となる。しばし迷うが、牧野さんのスマホ予報では少しすれば雨雲は通過の見込みということで、合羽を着込んで歩き出す。車道を少し戻って蟻腰坂から六十里越古道に入る。入り口にミニチュアの多層民家があり、登山届け入れとなっているのが面白い。



最初がやや急な登りだが、登り切ると徐々にゆるやかな山道となる。道はしっかりしていて、落ち葉が足に柔らかく歩きやすい。幸い雨は止み、合羽も脱いで行く。途中国道を横断するが、スノーシェッドの上に歩道が確保してあった。前日の行程は里山然とした植生だったが、今日は奥山らしい深いブナ林に入っていく。要所要所に看板があり、昔の茶屋跡だの弘法大師のなんかだのが続く。龍神ブナはともかく、二本のブナの木が手を繋ぐ「ラブラブナ」は最近の命名だろう。昨日は俳句だったが、今日は山形出身の歌人、斎藤茂吉の歌碑を辿っての行程となる。

尾根の上に切り通しを付けた「小掘抜」「大掘抜」を通過する。それぞれ「コホノギ」「オホノギ」と読むらしい。切り通しにするまでもなさそうな起伏だが、昔日に馬を通すためにわざわざ掘ったのであろうか。さすがに登山道ではなく交通のための「街道」らしく、登るともなく細越峠にたどり着いた。志津までは結構な距離だが、このペースなら歩けそうだ。峠の先で横に入ってしばし登ると「遥拝所」。谷を挟んで湯殿山神社の赤い大鳥居と奥の院が眺められる。全くの山の風景の中にぽつんと立つ様は、昔の人には相当なパワースポットと感じられたであろう。

峠に戻って、街道を下り始めるとポツポツと降り始めた。合羽を着ると同時にまたかなり強い本降りとなった。予報はもともと芳しくなかったもので、今日の行程は湯殿山神社入り口までとする。

一台デポした車でまずは七ツ滝の岡安さんの車を回収に行く。全員は乗れないので、残る3人は湯殿山神社に歩いていくとのこと。車を回収して戻ってきて、有料道路を大鳥居のところまで進む。3人の姿が見えないので、そのまま神社奥の院まで歩いて行く。結局奥の院に参拝しても出逢えず、引き返す途中でようやくすれ違った。有料道路を走っている時に、山道を歩いていた3人を追い越したらしい。先に車に戻って待っているうちに、雨はますます強まり吹き降りとなった。散々な天気になったが、岡

安さんと牧野さんは初参拝だったとのこと。こんな天気でも大勢の観光客、参拝者が次々に訪れているのが印象的だった。

だいぶ体が冷えてしまったので、最後は温泉へ。と水沢温泉に向かうと、なんと休館。改修工事で来年春まで休みとのこと。月山の山スキーシーズン中ずっと使えないようだ。ともかく近くの「うなぎ温泉」でなんとか温まることができた。車3台、温泉で解散となった。

六十里越古道、完走とはならなかったが、秋の山道歩きはなかなか味わい深かった。雨には降られたが、同行の皆さんのおかげで、終始わいわいと楽しく歩かせてもらえた。さて残る大岫峠（おおぐきとうげ）を今年中に越えられるかどうか。 記 鏡

㊸山域： 一切経山・東吾妻山 11月4日（金） 岡安 単独 夏道登山概要：

天候 曇り時々雪 登山開始時気温 3℃ 行動時間 5時間30分、距離 15.9km

時間：6:05 自宅出発 8:30 浄土平→一切経山→鎌沼→東吾妻山→鳥子平→14:00 浄土平
14:00 浄土平下山 17:00 自宅着

報告・感想：

景色が良く気軽に山歩きができるところがないか考えたところ、
これまで磐梯吾妻スカイラインを何度かドライブしたことがあったが、
素通りしてきた浄土平から一切経山と東吾妻山に登ることにした。
冬季通行止めは11月中旬ごろからあるが、夜間はすでに通行止めとなっており、
高湯温泉の先のゲートが8:00に開くまで30分ほど待って、スカイラインに入った。
浄土平の駐車場に8:20に到着した。浄土平の気温は3℃と低く、少し着込んでから
出発した。しばらくして、雪がぱらつき始め、風も強くなり顔に当たると痛い。
登山道や木道には積もらない程度の雪だったので、幸い歩きに問題はなかった。
一切経山までは、すれ違いを含めて30人くらい登っており、比較的にぎわっていた。
一切経山の山頂直下には、青い五色沼をかすかにみることができた。
その後、折り返し下し、鎌沼経由で東吾妻山へ向かった。東吾妻山のルートでは
誰ともあわなかった。東吾妻山の下りは中途半端な大きさの石が多く足の運びに
若干苦労した。その後、しぼらのんびり歩き、14:00に浄土平に到着した。
あいにくの天気であったが、良い気分転換になった。

帰りは、高湯温泉のあったか湯による予定であったが終日清掃日のため、
閉まっていた。残念。17:00まで自宅に戻る必要があったため、他の温泉には
寄らず、ふもとにある小さく新しいワイナリーの吾妻山麓醸造所に立ち寄り、
ワインを購入してから帰ることにした。

記 岡安

㊸ 2022 11・12 鳥海山 スキー登山 荻野 単独

タイム 4時半：仙台発－8時半：入山－10時半過ぎ：伏拝岳－ビヤ沢源頭で遊ぶ
－12時：下山開始－14時半：下山

金曜日に職場でウロウロしていたら、秋田・由利本荘から鳥海山を捉えたお天気カメラが目に入り、“北面”は真っ白で、「これは滑らねば」と思いっただけで、翌日の山行となりました。

本命は北東面だったのですが、去年も11月1週目に初滑りをした祓川は冬季通行止め。百宅口に行く元気がなかったのもあり、南面ですが湯の台口を選びました。

湯の台口から見る鳥海は、まだまだ晩秋の装いでとても滑れそうにはありませんでしたが、トレーニングのつもり（+淡い期待）でスキーと兼用靴を担いで、アプローチシューズで登りました。河原宿小屋から雪が出始めましたが、まだ雪面が堅かったこともあり、ローカットのアプローチシューズで登り続けました。いつになく体が軽く、2時間ちょっとで外輪山。プラブーツに履き替え、東面の偵察に行くつもりでしたが、2カ月前に遡行したビヤ沢源頭(写真)に吹き溜まりを見つけて、「ここらでよかろうか」と3本滑ってお茶を濁しました。



「秋」晴れの鳥海山は気温も心地よく、単に歩くだけでも気持ち良い気候でした。登山者は計10名強。一人はボードを担いでいて、心字雪渓の残骸で滑っていました。その方によると、先週末はガスが酷かったものの、滝ノ小屋まで降雪があり、河原宿の上はかなりのパウダーだったそうです。一週間でほとんど秋に逆戻りといったところでしょうか。労力に見合っているかともかく、シーズンイン！ということで。勇み足でも、行ってみたら少しはいいことがありましたという報告でした。

記 荻野

㊥2002・11・14 甕岳 夏道 大竹 単独

地図に無い東根からの登山道。

数年前に、ぼつんと一軒家で放映されてからいきなり入山者が増えたと聞く。

そのせいではないだろうが、この辺りは今年不作みたい。

途中、何度か下山のキノコ採りに会って話しをするが、異口同音に「今年はダメ」と苦笑いしながら空の籠を見せていた。

その通りだった。

見つけたキノコはほとんど小さなまま干からびていたり、いつもあるところにも出ていない。

干し柿用の柿も変形が目立っていて農家も大変と言うニュースがあったが、異常気象のせいかな？

なんとか家族分を確保し、山頂を目指すものの雨。

1時も過ぎたので山頂手前で戻った。

月山は厚い雲の中。

ひょっとしたら・・・！？

記 大竹!!

㊦ 0221105-07 明星山 形態：アルパインクライミング 天気は、晴天。

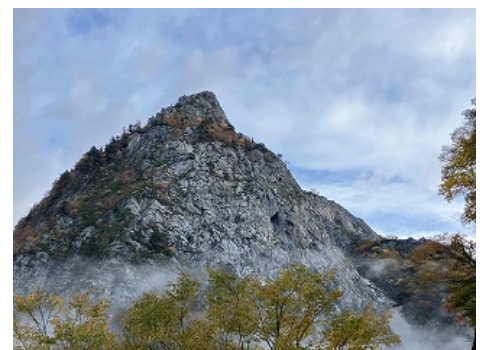
ルートクインズウェイ（12ピッチ）メンバー：香織、他1

■ ヒスイ峡・明星山大岩壁展望台駐車場 530 ■ クインズウェイ取付き 600 ■ 登攀開始（620）→登攀終了（1400） ■ 下山 1630

感想

長い間憧れていた明星山、クインズウェイにいつてきました。

12ピッチのルートですが、8ピッチで時間切れ敗退。中央バンドからエスケープして歩きで帰ってきました。



岩場は私たちだけでした。次の日の月曜日は、岩も乾いてたせいか4パーティー入っていました。ガイドパーティーが2組、他2組でした。こんなもろい岩にガイドが入ってることにびっくりしました。クインズウェイは、フリー、クラックの技術、他のルートもたくさん交差してる中、限られたピンの中でルートを読む力、どれをとっても難しかったです。

11/5 アプローチと下山路の下見。前日の雨で取り付きは濡れてました。



11/6 登攀、やっぱり2pめまで濡れてて、ルート上の最大の核心ピッチがびしょ濡れ。突破できないかと思いました。1時間ぐらいかけてしまいましたがなんとか突破、それからは岩がかわきはじめました。

8p 終わって 13:30

登攀終了を15:00で計画していて、あと4pを登るのは無理だと判断。中央バンドからエスケープしました。下見はしてたけど、ふたりともはじめての山域で下山路を見つけるのに苦労しました。パートナーが前日の下見でつけたテープを奇跡的にみ

つけてくれ、無事にもどれました。パートナーの野生？山の感に感動すると同時に、前日、下見をしてほんとによかったと思いました。

15:30 赤札の松

16:45 駐車場

7p 目終わってやっとルートの上部が見えたとき、上まで抜きたいと思いきなり葛藤しました。日没までは抜けれたかもしれない。でも、ガレ場でビバーク、昨日下見したとこまで降りるのはむりだと思い悔しい気持ちをもちながらの敗退でした。無事に帰ってきたので、正しい判断だったと思います。

天気もよくないしキャンセルすることも考えましたが、実力も波長もあう最高のパートナーがいるのに、山は逃げないけどチャンスは逃げるかもしれない。

やっぱり今、行かないと思いました。

ずいぶん前から計画をたて、作戦を練って、体と心を準備して、、、今の自分にできる最大限のチャレンジができていまはとても幸せな気持ちです。 記 布施 香織

㊤11月19日 姥ヶ岳 スキー登山 大竹 田中

今シーズンの初滑り。

70の声を聞いてから、年々独りで山に入る時の不安感は雪だるま式に膨らんでいる。

加えて今年喜寿を迎え、その雪だるまは加速的にでかくなった。

ここ数年、体力・判断力の低下は無論のこと、なにより沢でもスキーでも山行に関する動作低下がいつそう著しい。

まさに「寄る年波には勝てない」

でも、むしろそれがあからこそ、一層安全には自分なりに気を配るようになってはきている。

幸か不幸か、昔のような「行け行けドンドン」は影を潜めてきた(かな?)。

今回、有難いことに強力なる助っ人、田中君が手を上げてくれた。



そうなる元现金なものもので、重石のようにあった不安感は消え、俄然行く気満々。

いつもの志津のPで落ち合い姥沢へ向かう。

まったく雪の無い姥沢には先着の車が4台。

リフト道は下部は雪の張り付きがわずか。

最初の急登を過ぎ斜度が緩んだ後半からスキー歩行を開始する。

リフトトップに着いても、ブッシュと岩がいたる所に露出して滑りにならず、ノンストップで姥の東面に回り込んだ。

が、雪は少ない。

しかもガリガリ斜面。

岩・ブッシュを避け、固い斜面に板を打ち込みながら高度を上げる。

冷風と低気温の中、これ以上突っ込むのは意味がないと言うことで、岩稜帯に入ったところでストップ。

滑ろうとザックを背負って立ちあがったら、酔いでこけそうになった。

滑降に入るもホワイトアウトで斜面が見えず斜度も分からない。

慎重なターンを繰り返し、なんとか下部のブッシュ帯まで滑降。

なんかこのまま戻るのも不完全燃焼なので、もう一本。

その後、リフトトップに下り、ベタ重雪のリフト道を滑り途中から、スキーをザックに付けて戻った。

なお、道の駅水沢温泉は大改修のため3月まで閉館（先月初めに回数券を買ったばかりなのに！）

その先の海味温泉(200円)で汗を流して帰宅。

同行してくれたヘルパー田中君に改めて感謝です。

記 大竹



㊥11月20日 金華山 夏道 鏡 単独

二年目の金華山参り、行ってきました。

朝のうち曇り気味の天気でしたが、徐々に晴れてきて風もあまりなく良い天気でした。

去年は山登りの人にはほとんど会わなかったのですが、今年はだいぶ登ってる人がいました。（船の時間によるかもしれませんが。）山頂の手前、水神社のところから道をそれて北の峰の神社へ。（地図ではこちらが水神社となっていますが、？）ここは無人、展望を楽しみながら昼食。その後、頂上から稜線を二の御殿の鞍部へ縦走。帰りの時間

が気になるので、あとは造林小屋（サル小屋？）経由で戻りました。今年は滞在時間3時間ちょっとですが、これだとあまりゆっくり出来なかったです。来年は海上タクシーチャーターでいかがでしょうか。

記 鏡



㊥ 会山行 11月27日（日）山域：いわき丑ノ倉

形態：クライミング&芋煮 担当：布施夫妻
参加：布施、布施香織、西田、鏡、伊藤、木村、
後藤、岡安、他1



11月会山行から無事下山しました。以下、報告です。

天気は晴れで、暑くもなく寒くもなく、絶好のクライミング日和でした。先行に2パーティ。しかし、顔見知りの人達で、譲り合いながら、ハーフトームの春一番9+、リトル赤いカバ9、サニーサイドストーリー9+、リトル白いワニ

10b、裏口入学クラック7、への河童8などにトライしました。また、クオータードームのボルダー課題、卒業トラバース6級にも皆トライし楽しんでました。

木村くんは、クラックに強いですね。岡安さんは、たくさんのルートにトライしました。

後藤くんも、リードで果敢にトライしてました。

皆さん、クライミングのいい練習になったのではと思います。

記 布施

布施夫妻の守り神



Sun (サン)

((影のリーダー)